

日本博公式企画



日本人が育んだ

さくらそう

の文化史

2019年

4月6日(土)~4月14日(日)

国立科学博物館(東京・上野公園) 中庭

※4月8日(月)休館

[開館時間] 9:00~17:00(入館は16:30まで)

6日(土)、12日(金)、13日(土)は9:00~20:00(入館は19:30まで)

[入館料] 一般・大学生: 620円(20名以上の団体: 500円)

高校生以下および65歳以上: 無料

※入館料のみでご覧いただけます。



国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

主催: 国立科学博物館 筑波実験植物園、筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター

協力: 筑波大学大学院生命環境科学研究科育種学分野、筑波大学さくらそう里親の会、
NPO つくばアーバンガーデニング

日本人が育んだ さくらそうの文化史

日本人が古くから愛で、独自の美意識と選抜眼で数多くの園芸品種を作り出してきた古典的園芸植物群は、文化的遺産としてとらえることができます。

さくらそうは、野生種の栽培と鑑賞が室町時代に京都の宮廷文化で始まり、江戸時代に多くの園芸品種が作り出されました。その育種過程の詳細は不明でしたが、最近の遺伝子解析により園芸品種の起源となった集団が明らかになっています。今回の展示では、さくらそうの園芸品種を通して、日本人が野生の植物の様々な遺伝的特性に気づき、愛で、育んできた歴史があることをお伝えします。



野生のサクラソウ
数百種あるさくらそう園芸品種は、
わずか1種の野生種から作出されてきました。

桜草花壇

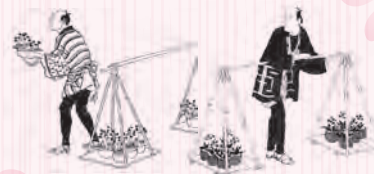
江戸時代から続く方法で、
さくらそう園芸品種33鉢を
展示します。



桜草花壇
さくらそうの美しさをより引き立たせるために
考案されました。

パネル展示

さくらそう園芸品種の由来
さくらそう園芸品種の成立
さくらそう栽培の歴史



江戸の桜草売りの記録
たくさん咲いているさくらそうを掘りとり
鉢に植え、それを一鉢四文で江戸市中に
振り売っていたとされています。



園芸品種「美女の舞」



園芸品種「白砂青松」



園芸品種「南京小桜」

関連イベント

コレクション特別公開「さくらそう品種展」

期間：2019年4月13日(土)～4月21日(日)

※4月15日(月)休園

国立科学博物館 筑波実験植物園

〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1 TEL 029-851-5159

<http://www.tbg.kahaku.go.jp/>



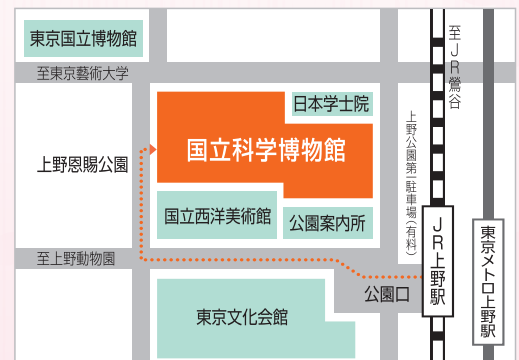
交通ガイド

- JR「上野駅」公園口から徒歩5分
- 東京メトロ銀座線・日比谷線「上野駅」から徒歩10分
- 京成電鉄「京成上野駅」から徒歩10分

※当館には駐車場および駐輪場はございません。

〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20

TEL 03-5777-8600(ハローダイヤル) FAX 03-5814-9898



国立科学博物館

National Museum of Nature and Science